



只見町で活躍する 元・地域おこし協力隊に聞きました!

地域おこし協力隊(※)の任期終了後の活動はご存じでしょうか。任期終了後の進路に制限はなく、協力隊の自由となっているため、新たな地で更に経験を積む方、協力隊の経験を基に起業する方などその後の進路は様々です。

今回は、平成29年に地域おこし協力隊となり、今年3月末で3年間の任期を終えた後も只見町でお仕事を続けている藤沼航平さんにお話を聞きました。



(※)地域おこし協力隊とは、都市地域からの移住者を「地域おこし協力隊」として任命し、農業等への従事、地域の魅力PRなど様々な地域活動を行いながら地域への定住・定着を図る総務省の取組みです。町は、平成26年から受け入れ、観光や教育分野で活躍されています。

-INTERVIEW-

藤沼 航平(30)

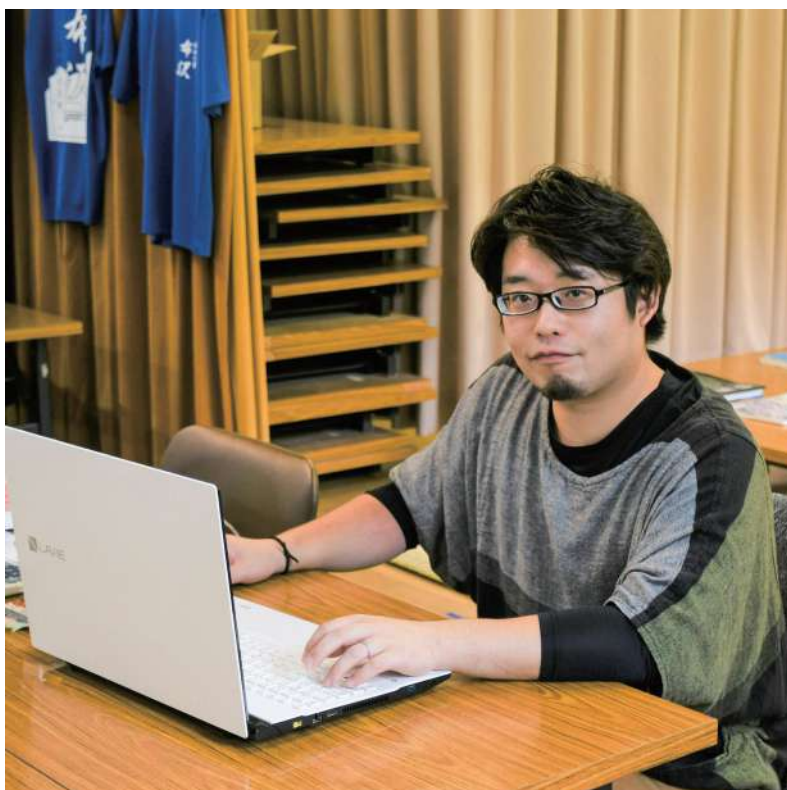
- 出身…栃木県
- 現職…森林の分校ふざわ管理人
- 前職…全農とちぎ職員↓
只見町の地域おこし協力隊
- 好きなスポーツ…恵みの森
- 只見歴…9年目

Q. 今のお仕事は何ですか？

A. 布沢集落にある「森林(もり)の分校ふざわ」で働いています。

山村暮らしを体験できる宿泊施設で、宿泊予約の管理や施設の維持などのいわゆる管理人をしています。

他にも、山村ならではの体験ができるようなもの、例えば、夏は沢遊びや釣り、冬はかんじきで雪上歩きといった企画をしたり、依頼があれば、恵みの森や癒しの森のガイドをしたりします。



Q. 只見町で仕事を続けようと思ったキッカケは何ですか？

A. 地域の方の温かさです。

元々、大学生の時に、福島県の事業で1年間、布沢集落の調査活動兼地域おこしを行わせていただいたことが只見町との最初の出会いでした。初日から温和に迎え入れていただき、毎回帰り際には、「また来てけやれ〜」で温かくお見送りしてもらいました。

その後、布沢集落の「継続してほしい」との声もあり、地域おこしサークル「Dーフレンズ」を立ち上げ、学生時代と社会人を合わせて5年間通いました。毎回「また来てけやれ〜」と声をかけてくれる人の温かさが好きになり地域おこし協力隊になりました。そして、満了後も町の人の温かさを伝えたくて、この場所で仕事を続けます。

Q. 今後、只見町でやりたいことはなんですか？

A. 雪国の暮らし方を観光コンテンツとして提供することです。

そのために、只見町の人々が当たり前に行ってきた雪国での暮らしを観光という分野に昇華させるために日々勉強しています。行ってみたいなどと思わせる見せ方・聞かせ方・感じさせ方の工夫はもちろんのこと、実際

に来た人にもおもてなしをしながらか、自分たちも一緒に楽しむことが出来たら、この地域の良さを最大限に伝えることができるのではないのでしょうか。

Q. これから地域おこし協力隊になる方、只見に移住する方へ一言お願いします。

A. 私は、都会の人の感覚を忘れないことを重要視しています。

早くこの地に慣れようとか、こちらの生活にどっぷり浸かろうとするよりは、外から見たこの町の良さを忘れないように心がけることも大切だと思います。都会の人だからこそ分かるこの地域の良し悪しがあるので、改めてここを良いところと再認識するために都会の感覚を忘れないように私は、気を付けています。

地域おこし協力隊の募集は町のHPで随時お知らせしています。
移住・定住についてのご相談は、地域創生課(☎82-5220)までご相談ください。
森林の分校ふざわの宿泊や体験メニューの予約は☎0241-71-9511までご連絡ください。